
令和4年度 事業計画



社会福祉法人 **きらめき** 会
KIRAMEKIKAI

法人理念

笑顔

>>

地域への笑顔

利用者様への笑顔

ご家族への笑顔

自分への笑顔

すべての人が笑顔で過ごせる施設を目指して。

きらめき会の目指すビジョン

地域を笑顔にする。

地域に根付いた、
地域に愛される施設を作り
地域を笑顔にする。

きらめき会の行動指針

3つの指針。

1 基本に忠実であること

福祉があるべき基本的な姿勢に忠実であり、本質を見失わずに邁進すること。

2 積極的に物事を考えること

積極性を持ち、より質の高い介護サービスの提供に尽くすこと。

3 心のこもった行動をすること

ご入居者様・ご家族さま・地域の皆様・共に働く仲間に愛情を持ち、心をこめて全ての業務に従事すること。

重点実施目標

<法人>

- ・新しい事業領域の開拓
- ・新規事業の検討
- ・経営管理体制の効率化
- ・人財定着、採用戦略の見直し
- ・職員のモチベーション向上のための仕組みづくり
- ・災害や感染症対策の見直し
- ・人財育成の仕組みづくり
- ・地域との関わり方を見直し

<八潮いこいの里>

- ・QOLの向上
- ・看取りケアの質向上と検証
- ・利用率95%維持
- ・入院者の減少
- ・離職率の低下
- ・安定した雇用

<横浜いこいの里>

- ・QOLの向上
- ・登録人数平均22名確保
- ・地域との関わり方を見直し
- ・他法人と交流
- ・職員のモチベーション向上
- ・看取りケア
- ・医療ケアの充実

<若葉いこいの里>

- ・組織づくり
- ・管理職の育成
- ・働きやすい環境づくり
- ・介護の質の向上
- ・稼働率95%以上維持
- ・外国籍向けの教育の確立

社会福祉法人きらめき会
法人本部

2022年度事業方針

FY2022 PLAN



法人本部
Business HQ



1. 新しい事業領域の開拓と新規事業の検討

① 新規特養計画の推進

横浜市旭区内に特養開設のための準備をすすめます。地域に愛される施設を作るため、住まいであること、最期まで暮らせること、役割をもって暮らせることなどコンセプトを言語化し、発信していきます。

② 高齢者福祉事業の情報収集

第8期介護保険事業計画の情報収集を行い、地域の福祉ニーズへの対応や事業リスクの分散の観点からどのような事業に取り組むべきかの検討をすすめます。特に、小規模多機能型居宅介護や看護小規模多機能型居宅介護について検討をすすめます。

③ 新たな福祉事業の検討

地域に必要な福祉事業は何かという視点で考え、特に障害及び子どもの分野で新たな事業の検討をすすめてまいります。

2. BCPの見直しと経営管理体制の効率化

① BCPについての再検討

災害、感染症などにより、通常の事業が継続できない事態に備えて、どのようなリスクが存在するかの洗い出し、危機発生時の事業継続の方針と、その方法について、計画策定のための準備を行います。

② 経営指標管理の徹底

持続可能な成長と安定的な経営のための指標を明確に定め、それら客観的な根拠に基づいた経営判断ができるようにしていきます。経営指標のモニタリングと業務改善について役割を明確にします。

③ ICTの活用とバックオフィスの強化

情報収集を定期的に行い、業務改善につながるICT導入を進めていきます。又、ICT推進委員会の発足を目指し、現在導入しているICTの見直しや改善に努めます。

3. 職員のモチベーション向上のための仕組みづくり

① 職員の処遇改善を検討

福利厚生委員会を適時開催し、職員からのリアルな意見を吸い上げ、職員が働きやすいよう環境づくりを構築します。また、有給休暇、特別休暇の取得率向上を図ります。

② 多様な職員が働ける仕組みと基盤づくり

文化、宗教、年齢、セクシャリティ、障害など多様な職員がいることを前提として、その職員が持つ力、良さに着目して、その職員が成長していけるように個別のアプローチを行います。

③ 楽しい職場づくりのための取り組み

仕事や職場で「楽しさ」や「遊びごころ」が感じられるような工夫を行います。職員同士のコミュニケーションが活発するようクラブ活動を推奨します。研修やさまざまな企画に現場の職員が画できるような仕組みづくり、経験年数にとられない積極的な登用やジョブチェンジなどを行います。

小規模多機能型居宅介護
横浜いこいの里

01
横浜

いこいの里

Yokohama
Ikoi No Sato

名称

小規模多機能型居宅介護
横浜いこいの里

住所

神奈川県横浜市泉区中田西4-2-43-2

開所

平成22年4月1日

事業
内容

小規模多機能型居宅介護
介護予防小規模多機能型居宅介護
登録定員：29名（内通い：17名 宿泊：8名）

管理者コメント

今年度は、コロナ禍もようやく落ち着いてきたと喜んでいた矢先に、新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」が世界各地で猛威を振るい始めました。まだまだ終息傾向にはなく、感染予防対策の徹底を今後も継続して実施してまいります。また、コロナウィルスの影響で、職員の外部研修が実施できていないことを反省しています。次年度では、職員の資質・技能・実務能力の向上を図っていただけるよう内部研修・外部研修の充実を図ります。

新型コロナウイルスの影響があり、職員への業務負担が増えたにも関わらず離職が少なく、職員が定着しています。離職率が低いのは、コロナウィルスの対策への指針の明確化、メンタルケアの実施など職員のケアを重点的に行なった結果だと自負しております。また、勤続7年以上勤務の職員が全職員の半数を占めており、通い、訪問、泊りの対応を顔なじみの職員で出来ていることは、利用者様、ご家族様の信頼・安心感に繋がっております。今後も職員の定着が図れるよう働きやすい環境づくりの整備を重点的に行って参ります。

課題としては、地域との関わりがまだまだ少なく認知度が低い為、次年度は地域の行事及び町内会合に積極的に参加、近隣の方が気軽の立ち寄れるような施設づくりを実施し、地域交流をより深める行動をして参ります。利用者様、職員の笑顔がたえない「横浜いこいの里」になるよう努力いたします。

2022年度事業方針

FY2022 PLAN

横浜いこいの里
Yokohama ikoi no Sato

目 標

- ◇ 登録の人数を平均24名を超えるように営業活動を強化する。利用者様一人一人に寄り添い、利用者様、ご家族が望まれる支援及び介助を実施する。生きがいを感じてもらう為、利用して頂く楽しみを持って頂くため、年間行事及び日々のレクリエーションの改革の実施。地域交流を深め地域の方々と連携し施設の存在を高め、地域を盛り上げていく。

取 り 組 み

- ◎ 営業の強化。きらめき通信を月に1回、ご家族や担当、居宅、病院、包括に送付をする。空き情報などFAX or メール or TELにて連絡を定期的に行う。週に1回の営業の外回りの実施する。
- ◎ 新規利用者及び臨時・曜日追加の積極的な受入を行う。
- ◎ 家族との信頼関係を大切にして、充実した在宅生活の継続を支援する。
- ◎ 他法人や他施設に積極的に出向き交流を図り、情報を共有しサービスに取り入れていく。
- ◎ 職員の業務の見直し、定期的な面談の実施を行う。
- ◎ 職員が自ら考え、行動して業務ができるよう研修を充実させる。

特別養護老人ホーム
八潮いこいの里

02
八潮

いこいの里

Yashio
Ikoi No Sato

名称

特別養護老人ホーム
八潮いこいの里

住所

埼玉県八潮市垢526-1

開所

平成30年4月1日

事業
内容

特別養護老人ホーム事業
定員：ユニット90床 従来30床 計120床
短期入所生活介護事業（空床利用）

施設長コメント

今年度もコロナウィルス感染症が蔓延し、外部研修に参加することがほとんどなく、内部研修も延期や中止が相次ぎ、研修の成果を出すことが出来ていない。しかし、キャリア別に開催し、そのキャリア毎に合わせた研修の内容を計画・実行できたことは評価できる。今後は、内部研修の充実化を図る為、オンライン研修の導入や外部講師の依頼なども検討していきたい。

1月末から2月末まで施設内3階でコロナのクラスターが発生してしまった。職員15名、入居者25名の計40名の陽性者が発生してしまった。この現状を踏まえて、感染が発生した時の初動の対応、感染拡大の防止の研修の実施や知識、対策の共有。感染エリアに携わる職員の疲労、負担、ストレスの増加。入居者に色々と制限して頂く場面が多く、ADLの低下や体力の低下によるご逝去（看取り対応者）も招いてしまった。

来年度は、災害や感染症などに対する徹底した実施訓練や机上訓練を行う。安心して働けるような職場環境の改善に重点を置き、取り組んでいきたい。

「事業継続計画」

1. 災害時、地域の方々（小学校、幼稚園、保育園、自治会の方など）が安心して施設に来られるようかかわりを持つ
2. 災害時や感染症発生時に混乱が起きないように訓練を実施し、いつ何が起きても良い備えをしておく
 - ※特に重点的な項目として、感染予防への意識や知識の習得、コロナ対策のマニュアル作成を行う。
 - ※災害対策として、地震、水害、火事を想定した避難訓練を計画する。

「職場環境の改善」

1. 八潮いこいの里で働き続けたいと思える職場環境を作る
2. 働き方改革を活用し、働きやすさを追求する
3. 介護ロボット等、ICT化を図る

2022年度事業方針

FY2022 PLAN

八潮いこいの里

Yashio ikoi no Sato

1

ユニットケアの実施

- 24時間シートの作成を行い、その人らしい生活を支援できるようにする。
- 介護士だけではなく専門職も一緒に関わり、コミュニケーションを図ることで互いの考え・相手の役割を理解することにも注力していく。
- 専門職も24時間シートの作成に協力してもらい、生活の支援をしてもらうよう働きかける。

2

内部研修の充実

- 介護士を中心に法定研修、その他キャリア毎に必要な研修を開催する。
- 感染症や災害に対しての実地研修や机上訓練を行い、非常事態に備える。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、各ユニットの感染予防への意識づけやクラスターになった状況の情報共有をすることで、いかにクラスターを未然に防ぐかを考える機会をもつ。

3

人事考課の確立

- 適正な評価が出来る様、評価の根拠や理由を明確にしていく。
- 評価の着眼点や観察項目などは、定期的な研修や個別相談を通して学んでいく。

4

リーダー候補の育成

- リーダーがリーダーらしく活躍できるよう支援していく。
- 全体研修やリーダーによって抱える悩みも様々なため、個別の相談や助言を行っていく。
- 1年間を通して考え方や指導の方法、伝え方などの統一を図り、少しずつ自信につなげていく。

特別養護老人ホーム
若葉いこいの里

03
若葉

いこいの里

Wakaba
Ikoi No Sato



名称

特別養護老人ホーム
若葉いこいの里

住所

千葉県千葉市若葉区若松町531-156

開所

令和3年4月1日

事業
内容

特別養護老人ホーム事業 定員：80床（ユニット）
短期入所生活介護事業 定員：20床

合計：100床

施設長コメント

本年度は、オープン年度ということもあり、稼働率と職員教育及び離職防止の構築に力を入れた。

【職員の確保】

オープニングにあたり退職者多数出たことと体調不良による職員の休職、またコロナ感染による欠勤などがあったが人員の確保はできている。求職者が戻ってくるまで派遣職員を2名ほど採用した。

【入居者の確保】

千葉市内外への営業活動により入居者の確保はスムーズに行えた。途中コロナクラスター発生により、稼働率が下がった時期もあったが今季最終月の稼働率は特養95%、ショートステイ105%、平均稼働100%を達成した。

今期に関しては稼働の安定及び職員の離職防止、コロナ対策に重点を置いてきた。

来年度は組織力に力を入れ**管理職の教育スキルアップ**に力を入れるとともに、**介護職の能力の向上**に努める。

また、感染管理にも力を入れクラスターの発生や、感染予防に力を入れる。

2022年度事業方針

FY2022 PLAN

若葉いこいの里
Wakaba ikoi no Sato

< 目 標 >

1. 組織作りの確立
2. 課長、主任、ユニットリーダーの育成
3. 実稼働95パーセント以上
4. 接遇、マナーの向上
5. 外国人向けの教育の確立

< 取 り 組 み >

1. 報告、連絡、相談を活発に組織を重視した運営を行う
2. 課長、主任、ユニットリーダーの会議及び教育を重視し、職員の離職および介護の質の向上の重視を図る
3. 特養は看取り介護を重視し入院させない介護、ショートステイは特養の入院の空所利用で稼働率アップを目指す
4. 接遇、マナー、虐待・身体拘束・苦情の研修を毎月行う
5. 外国人のリーダーを作り、マニュアルの作成を行い、外国人が誰でも働けるスキームを作る